



[フォノアンプ内蔵USBオーディオインターフェイス]

# ADL GT40 USB DAC

¥41,790

DACとして可能な多機能モデル。DACと交換も可能な多機能モデル。



●対応サンプリング周波数/ビットレート：96kHz/24bit (最大) ●入力端子：デジタル×1 (USB)、アナログRCA×1 (ライン、MM、MC切り替え式) ●出力端子：アナログ×1 (RCA)、ヘッドフォン×1 ●外形寸法：150W×57H×111Dmm ●重量：785g



背面にはアナログ入力を装備。アナログレコードの音をMacに取り込むこともできる。

### Macな視点

小型だが単体DACとして申し分ない品質。さらに、A/D変換機能も有しているのだから、遊べる範囲はさらに広がる。音声編集にはメーカー推奨のフリーウェア「Audacity」を使用。過去にエアチェックしたFM放送をデジタルアーカイブ化したり、CDになっていないレアなアナログ盤をデジタルファイルにしてiPodに転送し、外に持ち出したりすることが可能だ。そんな遊び心に溢れた機能は、Macユーザーの心をきつと捉えるだろう。

96kHz/24bitまでのハイレゾファイルに対応したUSB-DACである。MacBook AirとUSBケーブルを介して接続。GT40のアナログ音声出力(RCA)からプリメインアンプへと信号を送ってスピーカーで鳴らす。はじめに再生したのはギター奏者でプロデューサーとしても名高い、伊藤ゴローの『Glashaus』(96kHz/24bit WAV)である。「Glashaus -With Strings-」は彼のつま弾くクラシックギターにピアノ、チェロ、ストリングスが混じり合う優美な一曲だ。これをGT40は、立体感たっぷりに表現してくれる。スピーカーからリスナーに向かってふわりと大きな音場が生成されるようだ。ギ

ターは常にその真ん中に定位し、左右や後ろにピアノや弦楽器が配置されるようなイメージである。次に先日、HDtracksから配信が開始された、ハリー・コニックJr.の新譜『Every Man Should Know』(96kHz/24bit FLAC)を聴く。これまでの彼の音楽とはテイストを異にする、大人のジャズ・カントリーアルバムといった趣だ。ここではリアリティの高いヴォーカルが印象的だった。まるで語りかけられているみたいだ。アーティストとインティメートな雰囲気の中で時間を共にしているかのようなようでもある。「Being Alone」にはウイントン・マルサリスが参加。彼の

トランペットも穏やかに、余韻たっぷりに響きアルバムにびたりと寄り添っている。さて実は、GT40には通常のUSB-DACにはない特徴がある。それはアナログ「入力」端子1系統があることだ。しかも、ラインのほか、アナログプレーヤーにも対応。そしてD/Aの逆、A/D変換ができるのである。つまりカセットテープやアナログレコードの音を、パソコンの専用ソフトを使ってデジタルファイルにできるのだ。GT40とMacを組み合わせることで、時間やメディアの垣根を飛び越え、ひとつの音楽としてフラットに楽しめる。(中林)